

いしづち

2018.3

No.121

 公益社団法人 愛媛県建築士会
<http://www.ehime-shikai.com>



故きをたずねて 持田地区の一間洋館住宅
自然と家とにんげんと 土壁と暗闇
光のはなし 食卓のあかり

1	故きをたずねて 持田地区の一間洋館住宅	文化財.まちづくり委員会委員長	花岡 直樹 ……①
2	自然と家とにんげんと 土壁と暗間	今 治 支 部	橋詰 飛香 ……②
3	光のはなし 食卓のあかり	宮 地 電 機 (株)	田部 泉 ……③
4	くさぐさの風景 オウレンの仲間-小さなものを大きく見る-	松 山 支 部	安藤 雅人 ……④
5	夢現 心配置図	松 山 支 部	玉乃井公和 ……⑤
6	ヘリテージマネージャー養成講座報告 第5回講座(10月14日) 伝統的建造物の構造技術と修復の方法 第6回講座(10月28日) 第7回講座(11月18日) 新居浜市の別子・住友関係の近代化遺産見学	文化財.まちづくり委員会委員 文化財.まちづくり委員会委員 文化財.まちづくり委員会委員長	久保 孝 ……⑥ 峰岡 秀和 ……⑦ 花岡 直樹 ……⑩
7	支部報告 第60回建築士会全国大会(京都大会) 各支部報告 四国中央支部長 新居浜支部長 西 条 支 部 今 治 支 部 長 松 山 支 部 長 大 洲 支 部 長 西 予 支 部 長 宇 和 島 支 部 松山支部地区対抗ボウリング大会・懇親会 松山支部主催勉強会報告	尾藤 淳一 ……⑫ 白石 公成 ……⑫ 野口 雄司 ……⑬ 石丸真智子 ……⑭ 赤根 良忠 ……⑮ 神田 孝一 ……⑮ 亀岡 俊治 ……⑯ 森川 晴喜 ……⑰ 相原 昌彦 ……⑱ 大内 雄志 ……⑲	
8	委員会報告 青年委員会 とびだせ建築士(中予)「持田幼稚園見学会」 女性委員会 暮らし+(プラス)勉強会 カルトナージュ体験講座 女性委員会主催 新年会、見学会の開催報告 第6回「瓦の勉強会」報告	青年委員長 松山支部青年女性委員 四国中央支部 松 山 支 部 松 山 支 部	松平 定真 ……⑳ 河窪 茂樹 ……㉑ 大西 千里 ……㉒ 永井 由起 ……㉓ 八束智恵美 ……㉔
9	けんちくの輪 建築士会全国大会 ヘリテージマネージャー養成講座受講のきっかけ	西 条 支 部 松 山 支 部	野口 雄司 ……㉕ 中山百合子 ……㉖
10	お知らせ 第4回理事会概要報告 第5回理事会概要報告 平成30年度「地域貢献活動基金助成対象事業」の募集について		事 務 局 ……㉗ 事 務 局 ……㉘ 事 務 局 ……㉙



版画

題：「興居島の瀬戸」
山田 きよ

〔表紙の版画について〕

興居島由良港すぐ近くに「観音寺」というお寺がある。島四国八十八か所の一番札所であり、4月20日、21日の札場巡りの日は多くの参拝者が訪れる。この島出身で、戦後我が国の偉大な土木技術者であった「宮本武之輔」は、この寺の墓地に眠っている。対岸に目をやると、高浜そして四十島瀬戸と奥に三津地区が美しく望める。

※ 尚、表紙及び本誌記事の無断転載を禁じます。

表紙作者 山田 きよ プロフィール

1959 喜多郡五十崎町(現内子町)に生まれる
1980 松山デザイン専門学校卒業
1982 広告デザイン会社を退社し、家業の竹材業に就く
1988 独学で切りぬき手法のシルクスクリーン版画を初制作
以後、内子町内子座や大風合戦のポスターを手がける
1993 初の個展
2003 愛媛県文化協会奨励賞
2012 個展回数が100回となる
(本名 山田 清昭 内子町在住)

第17回（最終回） 持田地区の一間洋館付住宅（松山市持田町）

文化財・まちづくり委員会 委員長 花岡 直樹

平成22年7月号より「故きをたずねて」と題して、愛媛の素晴らしい歴史的建造物を概ね古い順に、なるべくわかりやすい、こんな見方が面白いといった視線で紹介してまいりました。今回の第17回が最終回となります。最後は派手でパツと人目を引くもの、とも思いましたが、少し地味ではありますが、本当の意味で庶民の生活に根差した建物を紹介します。持田地区の「一間洋館付」住宅です。

この地区は松山城と道後温泉の間あたりに位置する閑静な住宅街で、先の第二次世界大戦の松山空襲でかろうじて焼け残った地域です。そのため明治・大正期をはじめとする戦前の建物が多く残っていて、文化財として指定を受け、あるいは登録されたものもたくさんあります。

昭和初期に建てられた上流階級の住宅には、一室または一部が外観も内装も洋風仕立てとなっている住宅がいくつも見られます。これが「一間洋館付」住宅です。あとの増築ではなく、新築当初から組み込まれたもので、和風の住宅とは別棟で洋館を建てることなどできないまでも、一部を洋風にした、いわゆる大正ロマンへの憧れの表れかも知れません。



一間洋館付の住宅



洋館部分が2階建てになり大きくなった例

中でも当時松山中学の校長を務めていた、雨宮新七家住宅は、持田地区の中央に位置する昭和7年建築の住宅です。玄関とその脇の応接室が洋風で、外壁は濃いえんじ色のモルタル掃き付け仕上げ、それとは対照的に建具、付け梁、破風板を白色としコントラストが強調されています。また、窓の上をとがらせ逆ホームベース型にしたり、玄関の2本の独立柱の形をわざと変えたり、随所にデザインに工夫を凝らしているのが伺えます。



雨宮新七家住宅外観



残されている完成間近なころの古写真

完成直前の写真が残されていますが、北側のバルコニーをなくすなど少し改造されたところもあるようですが、大事に受け継がれているのをうれしく思う次第です。

ご紹介したものの以外にも、愛媛県には数多くの素晴らしい歴史的建造物が残されています。現在取り壊されていく物も多くありますが、県民みんなでその価値を認識し、次の時代に受け継いでいけたらいいと思っています。長い間のご購読、どうもありがとうございました。

土壁と暗闇

今治支部 橋詰 飛香

昔ながらの家づくりを手がけ始めて無性に心惹かれる魅力に『暗さ』があります。現代の住まいにおいて「家が暗い」と言うと、なかなか理解されないでしょう。昔ながらの家は、適度な暗さをもつ家です。深い軒庇は光がダイレクトに入ってくるのを遮り、また障子からの光はより柔らかい光となります。壁は土の色味のままで室内は全体的に暗みを帯びたトーンになります。白い壁に慣れきってしまった私達の多くは、壁が暗い色味になる事や「暗い」という言葉そのものに異常な抵抗感を持っているかと思います。まあ、何を隠そう私自身もとかく影のない家を設計していた時期もありますので「暗さ」に対する嫌悪感は、当時の私自身の印象でもありました。

「暗さ」に対する認識が覆されたのは昔ながらの家づくりを始め出してからです。土壁という素材は、それまで自分が手がけたことのない様な闇を有無を言わせず引き込んで来たと言えます。正直、荒壁段階の現場はかなり暗く・・・、この時点で今まで感じた事のないような暗さにヒヤヒヤしたのを覚えています。しかしその暗く荒々しかった壁が左官の手によってコテで撫でられ、土の粒子が美しい表情へと変わりはじめた時点で、その場の空気感が一変するのです。土の素材から放たれる、その何とも言えない暗さのなかにシットリと静かな落ち着きに満ちた表情があることに、今まで感じたことのない感覚に心が騒ぎました。それは外からうっすらと射し込む柔らかい光に、土の粒子ひとつひとつが浮き立って光となり影となり、その薄暗さのなかに吸い込まれるような美しく深い心地よさを感じさせていました。母なる大地の土がもつ柔らかく優しい癒しのエネルギーと、暗闇がもつ静かで深い静寂のエネルギーは一心同体のように、私のなかで眠っていた感覚を呼び覚ましてくれる思いがしました。決して嫌でない暗さ、いえむしろ心惹かれる心地いい暗さがそこにありました。

多くの人が「ほっとする」場を家に望むように、暗さがあることでもたらされる恩恵。気持ちが落ち着きリラックスしたり、心を静寂に保ったりと、住まいには明るさと共に適度な暗さがもたらす重要性を感じます。

以前、いつもより光を多く取り込んで設計した土壁



の家、強い光のせいで土の色味や陰影が吹き飛んでしまい、シットリと風合いあるはずの壁が味も素っ気もない壁となってしまった苦い経験があります。やはり土壁から生まれる心地よさは闇や暗みがあってこそ発揮させられるもの

です。

現代は、陰影と言った情緒を醸し出す空間から遠のいて、味気のない無機質なボード類が安易に多用される時代。多くの人が『暗さ』に対する悪印象を抱くのは、自分達の日常的空間で暗みが発する深い体感が無いからで、薄暗さは＝心地悪さといった今の家から来た感覚なのだと知ることが出来ます。彼らの家にとっては闇のない明るすぎるぐらいの方が建材やボードの陰湿じみた嫌気が目立たず綺麗に見えると言えます。ちょっと前に、厚塗り白化粧した美白を売りにしていた女性にはライトアップが欠かせなかった様に（笑）。明るい家を求める現代は、ボードが氾濫するがゆえの結果と感じる事が出来ます。暗闇の心地よさを知らないのは、昼しかない世界の様なもの。

暗みのなかにある静寂や落ち着きそして美しさは私達の日本的な美意識をくすぐる世界であります。感性豊かだった日本人の住まいが、建材的なボードの家が変わり、室内全体が均一な灯りのもとで暮らす様になって、私たちが失っている代償は少なくはないだろうと推測します。

暗さのなかにある豊かさに気がつけば、もっと住まいの質や日本人としての感性をも増すのではと。きっとそれが良い物づくりをしてきた誇らしい日本人としての魂を呼び起こす事にも・・・、取り戻していきたいものです。

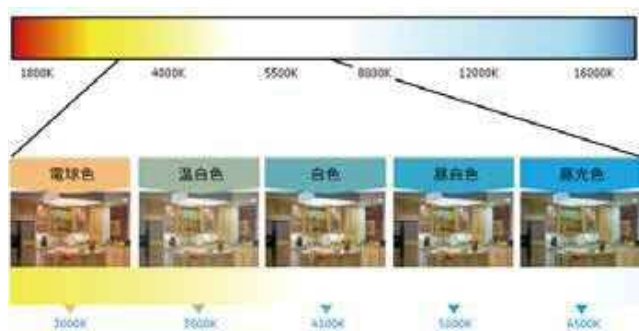
食卓のあかり

住宅の中で『食卓の照明』について考えてみます。家族が集う夜の食事を思い浮かべます。JIS Z9110 照明基準では、ダイニングの明るさは 200～500lx と表記があります。どのような照明が必要かの明記はなく、照度基準のみである。

食卓の照明は、食事が美味しそうに見える演色性の良い照明が良いです。平均演色評価数 Ra80 以上の光源を選びたい。

次に光の色味を考えたい。食事が美味しそうなお色はどのような色味が良いのか？

寒色系の色味には白色光の色味がより引き立つ。暖色系には電球色光の色味がより引き立ち、美味しそうに見える効果がある。例えばレストランで食事する場合は、雰囲気も料理も、どちらかと言えば暖色系の料理が多い。一般的には雰囲気や料理を美味しそうに見せるのは暖色系の電球色です。



■色温度 (K)

照明器具の種類では、

- 1. ダウンライト** テーブル上部に集光型で照らしている。ただテーブル配置が変わると照明がテーブル面を照らしにくい。
- 2. スポットライト** 自由に照明の方向を変えられるメリットがあり、配光も自由にセレクトできる。
- 3. 直付照明** シーリングライトで部屋全体が明るくなりがちで雰囲気づくりが難しい。
- 4. ペンダント** デザインもいろいろあり、好みで照明

宮地電機株式会社 照明・LED 担当室 田部 泉

器具をセレクトできる。一般的に一番多い照明方法ではないかと思えます。

食卓の照明をどのような照明方法とするのか大いに興味が湧き楽しみである。ペンダント照明でも、いろいろな気をつけなければならないことがある。

まずは、ペンダントの取付位置です。テーブル面からどの位置が良いのか？ 次の3つの注意点があります。テーブルに座った際の対面の方の顔が見えること。また、ペンダントの光源が見えなくする高さが大切である。眩しくない位置を自分で確認する。最後に雰囲気にあった明るさが大切です。

ペンダントライトは、高さを変えることで照度アップすることができます。光源の消費電力を変えないで照度アップが図れる。お子さんが、テーブルで文字を書いたり、本を読んだりしても十分な照度を確保することもできます。



KR100Wx1 乳白ガラス
■テーブル面より 900mm (照度 225lx)



KR100Wx1 乳白ガラス
■テーブル面より 600mm (照度 500lx)

誰でも知っていることですが照明は近づけると明るくなる。つまり、距離が半分になれば照度は4倍になると言います。『照度は、距離に二乗に反比例する。』

オウレンの仲間 —小さなものを大きく見る—

くさぐさの風景

松山支部 安藤 雅人



酒田市美術館

昨年に、早稲田大学建築学科で長年教鞭をとったプロフェッサーアーキテクトの池原義郎先生が亡くなった。

池原義郎氏は、早稲田大学人間科学部キャンパス、酒田市美術館のコンクリートの壁を軽快に見せる表現や、青い国アリーナ等の繊細なディテールを持ったメタルワークで知られる建築家ですが、教育者としても独創的で素晴らしい先生だったと思います。

先生の講義の設計実習Ⅰでは、柱とか壁といった建築の設計をしません。例えば、スチレンボードで作った箱に色々な穴を開けてみて、外から光をあてて中を覗いてみるとか、建築の空間デザインをするための、基礎となる考え方や方法を学びます。その中の一つに、「小さなものを大きく見る」という課題がありました。まず、学生が課題に沿ったスケッチ等を提出し、講評をします。その後、先生が、自身の作品や、歴代の優秀な学生の作品を使って、解説をします。正解は無く、頭を柔軟にして、良い発想を生み出すトレーニングです。

良い空間を設計するためには、良い空間を体験する必要があります。一番簡単なのは、良い建築を訪れることです。次は、建築と同じスケールの、例えば、木陰や鍾乳洞等に入ることです。しかし、動ける範囲も限られます。そこで、「小さなものを大きく見る」を活用すれば、多くの空間を疑似体験できるのです。

劣等生だった私は、折角の教えを、学生時代には実践しませんでした。最近になって、「小さなものを大きく見る」ようになりました。『小さな花を大きく写したり、大きく描いたり』しています。

前置きが長くなりましたが、オウレン（黄蓮）の仲間の花は、多くの雄蕊が、空間を抱いていて、立体的でとても美しいですが、1円玉よりも小さいので、遠く



パイカオウレン



セリバオウレン

から見るとどれも同じに見えますが、近づいて良く観ると、例えば、パイカオウレン（梅花黄蓮）とセリバオウレン（芹葉黄蓮）は、全く違います。パイカオウレンは梅の様な5枚の丸い花びらで、セリバオウレンは5枚の罫（ガク）と12枚の花びら全てが細長く、特に、白色の罫は、槍の様に尖っています。また、セリバオウレンの雄花には雌蕊が無く、全体が真っ白です。

ここでまた、池原先生の建築の話に戻しましょう。先に紹介した酒田市美術館の門に掛かったキャノピーを見てください。説明するまでもなく、植物由来のデザインです。アール・

ヌーボー等でも使われたモチーフにより、建築に生命の息吹を入れているのです。

酒田には、観光地の山居倉庫の他、谷口吉生さんの土門拳写真美術館もありますので、皆さんも是非、足を運んで、池原義郎先生の傑作の美術館を観てみてください。きっと、建築の美しさに感動すると思います。

心配配置図

松山支部 玉乃井 公和

「心配」と言うと、〈(わるいことがありはしないかと) ころを使うこと。〉と、国語辞典にもあるように、私達はどちらかと言えば、あまりいいことがないことを前提とした感覚でこの言葉をとらえています。これを素直にその字面の通り、「ころをくばる」と読めば、少し感じが変わってきます。

そしてその自己流の読み方を、住まいづくりに“適用”してみれば、「心配」は、住まいのかたちの中に思いやりや感動などが込められてあるような、そんな言葉にも見えてきます。

そのような勝手な解釈をしてみれば、私達設計者が、住まいの設計をする際に心すべきことは、未だ何も無い真っ白な敷地の上に、施主の予算や要望、法規等々の与条件を満たしつつ、いかにして心地好い「豊かな空間」をそこに生み出すのかという、そこで住まう人々のための、暮らしの「心配」をすることではないか、ということも又見えてきます。

私の、その「心配」の仕方を大まかに、シンプルに言えば、それは個々の敷地の上に、いかなる「外の部屋」(外部空間)と「内の部屋」(内部空間)とを配するのか、ということになるかと思えます。

この「心配」の仕方は、単に長方形の間取りを作っただけの〇〇風のトッピングを載せ、北側に寄せて“設置”することとは、大きな相違があります。

そして、敷地には広さや形状、段差等々の様々な違いがありますが、そこにこの「外の部屋」と「内の部屋」をうまく配することができれば、それぞれの個性ある敷地を生かし切ることができます。

言い換えれば住まいの設計とは、そこで生きる人々の心地好い暮らしのための、「豊かな空間を切り取る」ことである、とも言えるかと思えます。

さらには、この敷地の上に拮据する空間を“自由に切り取る”際に、設計者の持つべき意識としては、「外の部屋」と「内の部屋」とは、豊かな暮らしの環境を生み出すために「等価なものである」、という意識を持つべきであろう、と私は思っています。

そのためには「外の部屋」と「内の部屋」とは、一つの“流れ”として考えるべきであろうと思えます。

住まいのプランをする際には、「外にも部屋を生み出す」

という意識を持つということ。

「外の部屋」は、そこで住まう人々が、その場を介して人と人、人と自然、人と街などとの心地好い「縁」(かかわり、つながり、作用)を持ちながら生き続けられるための「縁空間」となり得るものです。

(この「縁空間」の一番分かり易い例としては、「中庭」が挙げられます。)

そのように考えてみれば、設計者が何を意図して住まいを設計しているのか、ということが一番よく現わされているものは、配置図であるということが分かります。配置図を見てみれば、そこで住まう人々のために設計者が何を「心配」しているのか、或いは何も「心配」することなく、そこにタテモノを“設置”しているだけなのか、一目瞭然、すぐに分かります。

そして、私が今の住まい、これからの住まいで本当に心配していることは、その価値の測り方が、数値のみの“心配”に偏りつつある、ということです。

極言すれば、住まいの本質を見つめることなく、ただ性能数値がいいものが「いい住まい」であるという、本末転倒した住まいづくり、住まいの評価の仕方の流れを、私は本当に心配しています。

その偏り具合のおかしさは、例えば身長、体重、顔、かたち、健康診断の数値等がよければ、その人は「いい人である」と言っているようなものです。

本来人は、一番に心のよさ、豊かさに価値がある筈で、そのことを住まいに当てはめてみれば、私達が住まいに求めなければならないこと、表現しなくてはならないことは、人の心に対応したもの、即ち「豊かな空間」であるということが、ごく自然に見えてくる筈です。

もちろん、健康でスタイルがよくて、イケメン、美女で、心が豊かであれば何も言うことはありません。(、何一つ私には当てはまらない！)

マッ、いいか。名もなく貧しく美しくもなく、徳なく金もなく忍び泣く。これで行こう！

「心配」：〈(いいことができはしないかと) ころを使うこと。〉

歴史的建造物の保存活用に係わる専門家養成講座

第5回講座（10月14日）

「伝統的建造物の構造技術と修復の方法」

ヘリテージマネージャー養成講座

6

文化財・まちづくり委員会 委員 久保 孝

場 所：愛媛県林業会館
 講 師：広島大学大学院教授 三浦 正幸 先生
 受講人数：15名

第5回は10月14日に、広島大学大学院教授で愛媛県の文化財保護審議委員を務められている三浦正幸先生をお招きし開催しました。6時間の座学での授業でしたが、分かり易く手描きの図面資料を基に講義が進められ、受講側としてはイメージがわき易く今まで知っているようで知らなかった事など興味深く講義を受けられ、あっという間に時間が経った様でした。講義内容の要訳は以下の通りです。



修復概論を説明する上での業界用語等

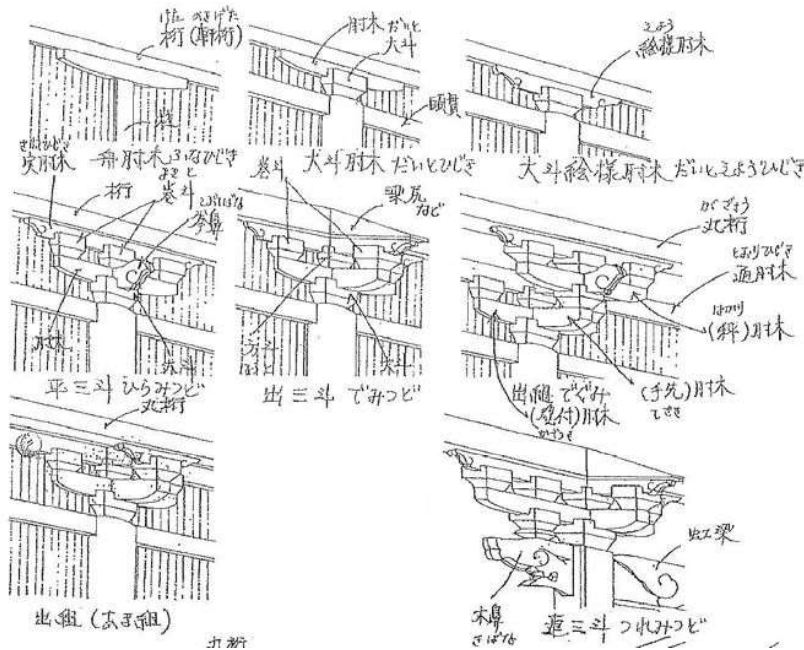
- ・材について：当初材・中古材・後補材・新補材・転用材
- ・修理については以下の4つがある
 - 解体修理（全解体）
 - 半解体修理（屋根と壁を解体）
 - 部分修理（文字のごとく）
 - 葺き替え修理（屋根）
- ・復原と復元について
 - 復原…文化財を修理する。（区別上、フクハラ）
 - 復元…なくなった物をフクゲンする。（区別上、フクモト）

文化財と呼ばれるもの

- ・築後50年以上経ったもので、建築基準法に適合しないものが多い。
- ・時代が古い建物の他、建築技術に優れたもの、手間を掛けて造られたもの、高級なものや珍しい材を使っているもの、芸術性が高く造詣深いもの。（文化財価値のあるものを発見した時は、それらを後世に残して行くためにも、所有者にその価値を伝えることが重要！）

日本の建築の特徴

- ・日本の建築は宗教建築（社寺）と世俗建築（住宅等）の二種類に分類される（城の天守は世俗建築になる。）
- ・曲線を多用する。
- ・目に触れる所は徹底的に手間をかけるが、目触れない床下や小屋裏などは手を抜いている。
- ・各所にカッコ良さと実用性を持たせた工夫を施す。
- ・間（ケン）はスパンを指す場合と長さを指す場合がある。
- ・宗教建築は柱間隔が場所により変わるが、世俗建築は等間隔に造られる。
- ・社寺建築は繁垂木で、その間隔の倍数で各部の寸法が決められている。（枝割）中央は必ず偶数とする。
- ・枝割と文枝掛の説明。
- ・桔木の役割、飛燕垂木の吊り上げ方法の説明。（吊り金物の位置で飛燕垂木が「く」の字におれている物は修理が必要。）
- ・仏堂の平面の変遷の説明。
- ・柱上の組物の説明（柱上に組物が乗っているものは宗教建築のみ。但し舟肘木は世俗建築にも用いられた。）
- ・大斗肘木、平三斗、出三斗、出組（一手先）が基本。
- ・寺院で出組が組まれたもの、は相当派手となる。
- ・神社建築は17世紀位までは出三斗が限界だったが、



18世紀以降は二手先、三手先の組物が現れる。

- 禅宗様の組物は肘木の下角が円弧で、尾垂木の先端が細くなるのが特徴。
- 禅宗様のことを「唐様」とも呼び、「唐」は当時高級、素敵といったイメージがあった。(唐破風は日本独特のもの)
- 建築様式としては、「和様」、「禅宗様(唐様)」、「大仏様(天笠様)」、「折衷様」がある。
- 虹梁の年代による変化の説明。
- 幕府のお触書により建築制限があった事や、それを免れる工夫の紹介。
- 建物の建築年代を判定する上で、木材の経年に伴う風食度の説明。(外部は100年で3mm程度風食する。)
- 柱の面取りの変遷の説明。(時代と共に細くなる。明治で糸面)

復元調査の方法と復元の時代について

- 風食の有無の調査。

- 柱などの改造痕跡調査。(ほぞ穴、貫穴、差し物跡等)
- 長押(特に内法長押)は部屋の改造の発見に役立つ。
- 何回かの改造が行われているとき、復元の時代の決定については議論が必要となる。
- 建築当初の姿に復元する場合もあるが、その建築特徴が一番あった時(一番繁栄した時)に戻す事が多い。
- 原則、使える材は極力残して復元に努めることが大切。
- 可逆性(もとに戻る様に)のある仕事に心がける。

- 合成樹脂のボンド類の使用は行わないこと。

古建築に使われた材種と大工の技術

- 愛媛県の古建築に使われている材料は、全国的に見ても一級品である。
- 次の様な材は貴重
 - 床板、床脇の地板等が無垢材で巾の広い物。
 - 長押で1本もの長さが4間以上の物。
 - 廊下の縁甲板で1本もの長さ5間以上の物。
 - 縁桁で長さが4間以上の物(特に元口と末口が同じ太さの物)
 - 屋久杉の天井板、カリン・モミジなど珍しい物。
 - 黒檀・鉄刀木・ビンロウ等大正時代の南洋材。
 - 人造材や木目をわざわざ手で描いたもの等。
- 長押、鴨居が柱に取り合う交点や床の間の仕事を見れば大工の技量をうかがえる。

以上の様な充実した講義となりました。

歴史的建造物の保存活用に係わる専門家養成講座

第6回講座（10月28日）

ヘリテージマネージャー養成講座

6

文化財・まちづくり委員会 委員 峰岡 秀和

今回の歴史的建造物の保全活用に係わる専門家（ヘリテージマネージャー）養成講座は持田幼稚園の体育館で行われました。午前中は「洋風建築の伝来・発展の説明」「持田地区の文化財の見学」講師は峰岡が務めました。午後からは「近代化遺産の説明、実例紹介」で、近代化遺産活用アドバイザーの岡崎直司さんから講義を受けました。

洋風建築の伝来・発展について

我が国における洋風建築の伝来は、世界の情勢と密接な関わりがあると言える。ヨーロッパを中心に始まった産業革命は資本主義を急速に発展させ、欧米諸国の海外への進出をはかるようになる。極東に広がった市場はアジア各国の港を開くきっかけとなった。そのような中、アメリカは中国との貿易の為、中継地点として日本を選び、ロシアはシベリアを南下し太平洋を窺うようになる。そのような緊張したアジア情勢を背景に1853年黒船が来航するのである。

幕末、日本は激動の時代を迎えるが、領事館の必要性から洋風建築が登場することとなり、建築史としても大きな変化を迎える。

洋風建築の変遷は大きく3つの時期に分類される。

第一期は明治維新後、外国人技術者によるものである。

富国強兵を押し進める日本政府は手っ取り早く技術を吸収する為、外国人技師を雇うこととなる。御雇外国人と呼ばれた技師たちは、富岡製紙工場、札幌農学校演武場（時計台）、灯台建築など、近代化に関わる多くの建築を残した。

第二期は擬洋風建築の登場である。

外国人が建てた建物を日本の工匠が見聞理解し、得た洋風の意匠や構造の部分を、古来の技術の上に積み重ね、文明開化を志向したものと言える。外部の意匠を模したもののだけでなく、内部構造にトラスの採用など、地域の建築にも様々な変化が見られるようになる。

第三期は本格的な洋風建築の登場である。

大学で洋風建築を学んだ日本人の登場により、明治中期くらいから本格的な洋風建築が登場する。構造は木造から鉄骨、コンクリート、レンガ造へと移り、様々な意匠や彫刻を持つ建物の建築が始まる。時代の背景とともに、帝冠様式など、様式の変化も見られた。

持田地区の文化財の見学

持田幼稚園

持田幼稚園は木造モダニズムの建築家、松村正恒氏の作品である。当時としては高い天井と前面に広く取られた窓により、非常にのびのびとした空間が特徴である。

非常階段が途中からすべり台になっているなど、細部に遊びごころを感じる建物となっている。

豊島園長から幼稚園で育つ子供の様子や建物の維持管理の難しさなどのお話も聞くことができた。



内部見学の様子。耐震のための材が見える

八束家住宅

昭和11年に建築された、文化住宅と言われる高級住宅。平成27年に登録有形文化財となっている。本格的な茶室を持ち、別棟に待合や蔵がある。庭も綺麗に手入れされているがあいにくの雨のため、主に主屋の見学となった。

玄関の横には洋室をもつ。「一室洋館」といわれるその洋室には当時としては珍しいベニヤ板が使用されている。そのほか、茶室・和室の意匠も凝っており、前回のヘリテージ講義で得た知識がより深く身につく建物であった。

章光堂

大正11年に建てられた旧制松山高等学校の講堂である。登録有形文化財に指定されている。現在は愛媛大学附属中学校の建物として、入学式などの式典や音楽会などに使用されている。

正面にはトスカナ様式のオーダーを持つエンタシスの円柱が支える車寄せがあり、ドイツ下見板張の壁や整然と並んだ上げ下げ窓から風格のある佇まいを感じる。瓦屋根を持つ擬洋風建築だが、正面左右の塔の高さが絶妙で、正面からは瓦が見えないようになっている。今回はイベントで内部を見ることができなかったが、当時としては画期的な高さや広さを持つ講堂である。

明教館

文政11年（1828）に建築された。松山藩主が藩

士の文武稽古場として二番町に建てた藩校の講堂である。県指定文化財に指定されている。鍔葺きの屋根が特徴で、三方が下屋になっている。内部には左右に床の間があり、天井が高く広い空間を持っている。また花頭窓や舟肘木もあり、寺院建築としての要素も見ることができる。連合会の三井所会長がお見えになられ、ヘリテージ講座を視察していただいた。



明教館内部の様子

砂土手

地方気象台へ向かう道筋に見ることができる。少し高くなっており、周囲の土地が一段下がっている。石手川が運んだ砂地を積み上げたものとされている。敵の侵攻を防ぐためのものか、敵をここへ追い詰めるためのものだったのか詳細はよくわからない。砂土手の外側には中の川から水を引き入れる予定であったようだ。加藤喜明が築いた軍事施設で、大坂の陣が終わると工事も中断されている。

松山地方気象台

設計者は当時の県の技師である戸村秀雄。木子七郎が設計した愛媛県庁よりも一年早い昭和3年の竣工である。戸村についてはよくわかっていないが、玄関の腰のタイルや観測室の小屋のトラスの鉄骨が萬翠荘のものと同じであるため、何らかの形で萬翠荘の仕事に携わった可能性が大きい。戦時中は黒色に迷彩されていたそうである。登録有形文化財に指定されている。

日本聖公会松山聖アンデレ教会

松山市に現存する唯一のレンガ造りの教会である。芸予地震後、教会としてイメージを損なわないように耐震改修された。礼拝があるという事で外からの見学となったが、ガラス戸から内部を見ることができた。



内部の様子。補強材がアーチ状に組み込まれている

近代化遺産の説明、実例紹介

ヘリテージマネージャーは技術と知識が必要である。今回の講義は知識として、建造物や、生活の中にある物の歴史的な「見方」「感じ方」を教わった。

愛媛県はこれまでに二回、1300件ほどの近代化遺産調査を行ってきた。二回の調査は全国でも例がなく、その調査によって近代化遺産がどのように減ってきているかという事も分かった。



講義をしてくださった岡崎直司講師

明治維新後、殖産興業・富国強兵などの政策で行われた近代化から始まった産業遺産 (Industrial Heritage) が近代化遺産という事になる。主に鉄道、土木から始まったのだが、工業系だけが産業というわけではなく、農業・魚業など幅広いものであることを理解しなければならない。

この限られた時代のものは文化や技術の移り変わりも激しく、無くなってしまふものが多い。身近にある近代化遺産に対する地域に根付いた価値付けを一体だれがしてゆくのかわ。どれだけ普遍性を持たせて一般化してゆくのかわ。文化財を残してゆく上でヘリテージマネージャーの意義や与えられた課題を考えさせられた講義であった。

歴史的建造物の保存活用に係わる専門家養成講座

第7回講座（11月18日）

「新居浜市の別子・住友関係の近代化遺産見学」

ヘリテージマネージャー養成講座

文化財・まちづくり委員会 委員長 花岡 直樹

場所：新居浜市広瀬歴史記念館、マイントピア別子、住友山田社宅

今回は、前回の第6回講座で近代化遺産アドバイザーの岡崎直司先生から説明のあった近代化遺産のうち、最もまともに残されている新居浜の別子・住友関係の住宅、産業遺産の見学を実施しました。岡崎先生がおっしゃっていた、「住友関係はまともな遺産であるゆえ愛媛の近代化遺産の代表ととらえられがちであるが、愛媛には東中南予のいたるところに素晴らしい近代化遺産がある。」ということを再認識したうえで講座に取り掛かりました。

まずは新居浜市広瀬歴史記念館で久葉裕可館長から、新居浜市の文化財について説明を受けた後、旧広瀬邸、マイントピア別子、住友山田社宅、星越選鉱所等を見学して回りました。



広瀬歴史記念館の久葉館長の講義

今回の講座は文化財・まちづくり委員会委員長の花岡が務めました。講座の内容は以下の通りです。

<午前の部>

(1) 広瀬記念館と旧広瀬邸見学（国指定重要文化財）

- ・ちょうど市政施行80周年記念・開館20周年特別企画展「広瀬邸と庭園のなりたち」が開催されていて、江戸期・明治期の古絵図も展示され、常設展示も合わせて見学した。
- ・奇しくも当日の新聞で、国の文化審議会が旧広瀬氏庭園を国の名勝にするよう文部科学相に答申した、との嬉しいニュースが報道されたばかりの庭園をゆっくり散策した。
- ・旧広瀬邸を見学。主屋は明治20年（1887）に旧金子村久保田にあった主屋を移築したもの。2階の座敷は幸平の漢詩により「望遠楼」と名付けられ、北の市内が一望でき、門を潜ってアプローチしてくる客を出

迎えることができる。新座敷と茶室（指月庵）は同22年の建築。その他靖献堂、煉瓦書庫の見学も行った。



旧広瀬邸全体配置図

<午後の部>

(2) マイントピア別子内外の端出場地区の産業遺産を見学

- ・端出場水力発電所:明治45年（1912）の建築、煉瓦造平屋建て、平成23年に国の登録有形文化財に登録。



端出場首水力発電所の見学の様子

- ・第四通洞（大正4年（1915））、同出口の四通橋（端出場橋梁、同7年）:通洞は毎日1000人にも及ぶ入坑を60年にわたって支えてきた。
- ・旧泉寿亭特別室:昭和12年（1937）に住友企業の迎賓館として新居浜市内に建てられた。平成2年に図書館用地として提供のため閉鎖され、貴賓室用の玄関と特別室1室が現在の場所に移築された。銭寿亭は住友家の屋号「泉屋」を「寿ぐ」に由来する。
- ・端出場鉄橋:明治26年（1893）、別子銅山下部鉄道開通時に完成。ドイツ製でピントラス橋として日本に現存する唯一の遺構として貴重。
- ・端出場隧道:鉄橋の架設に伴って開通し、昭和52年ま

で使用された。現在、鉄橋・隧道とも観光鉄道として使用されている。

- 端出場貯鉱庫跡:大正8年(1919)完成の鉱石を貯める施設。貯鉱庫の上には、第四通洞からの軌道敷きが延び、鉱石運搬車が貯鉱庫の上から鉱石を落として鉱石を貯める仕組みになっていた。



四通橋 突き当りが第四通洞



端出場鉄橋



端出場隧道

(3) 星越地区の遺構

- 山田社宅:昭和4年(1929)、星越駅が地方鉄道として営業を開始後、駅周辺を社宅として開発。敷地はすべてが庭付きで南向き、平均で150坪あった。最盛期には250戸が建ち並び約1000人が住んでいた。
- 新居浜市が譲り受け整備を行い公開している、西端の共同電力社長宅、同監査役宅を見学。
- 住友金属鉱山事業所長宅、外国人技術者用の西洋住宅2棟、住友化学工場長宅も同様に整備計画がある旨を説明し、外観を見学。
- 星越選鉱場を見学。頂上東側に、四阪島の日暮別邸の移築が計画中であることを説明。
- 星越駅舎:大正14年(1925)建築で、明治26年(1893)に竣工した別子鉱山鉄道の唯一現存する駅舎である旨を説明。



星越選鉱場

最後に、昨年度の受講者で欠席があり、今回の講座を補講として受講し、全課程を修了された方に寺尾会長より修了証書が手渡されました。



補講を終えた昨年度の受講生に修了証授与

第60回建築士会全国大会 (京都大会) 各支部報告

四国中央支部 支部長 尾藤 淳一

全国大会に参加するのは、何年ぶりになるでしょうか。例年だと四国中央地区の地方祭とだいたい日程が重なるので、どうしても参加し辛くなるのですが、今年は12月開催ということとやはり京都ということで、四国中央支部も9名参加できました。参加者はそれぞれに目的があって、全員揃っての行動は取れませんでした。それぞれに有意義に過ごすことができたのではないかと考えています。

私は、街中(空き家)部会に選任された責務上、街中(空き家)・歴史・景観まちづくり3部会合同セッションに参加してまいりました。セッションは、パネラー3名による福岡県八女市・熊本県熊本市・奈良県桜井市の事例発表と意見交換でした。

八女市では、市の助成金と保存機構(有志で設立)で資金を準備し、利用者が家賃を払い資金を返済している例。熊本市では、廃材などを活用しリノベーションを施し、借主に安く提供し利用を促進する例。桜井市では、歴史的観光資源を利用して、空き家を観光客向けの店舗・宿などに改修して利用する例がありました。どの例も地権者と利用者のマッチング、権利関係の整理、資金調達と返済方法、改修工事と建築基準法との整合性が課題と

なっています。

今後日本は人口減少社会にですから、コンパクトシティ化が求められています。空き家対策もひとつの手段としては有効だと思いますが、将来の交通インフラを見据えた都市計画をきちんとした上で、進めていかないと単に邪魔な古い建物を残しただけになりかねないと思います。行政と地域社会と建築士がもっと知恵を出し合って頑張らないといけません。

最後に、12月9日(土)の支部ナイトでは京都らしい懐石風フランス料理をみんなで堪能しました。



新居浜支部 支部長 白石 公成

私達は、平成29年12月7日早朝に、バスに乗って出発しました。西条支部が準備した旅行会社の案内で、参加者は、新居浜支部6人、西条支部11人でした。昼ごろには京都に着き、京都文化博物館を見学しましたが、別館は重要文化財で、辰野金吾と長野宇平治が設計し、明治39年(1906)に竣工した日本銀行京都支店です。その日の夕食は、京町屋を改装した居酒屋で懇親を深めました。翌日の8日は、第60回建築士会全国大会京都大会が開催された京都市勧業館「みやこめっせ」に行きました。大会では、京都で考える「山とまちと木造建築」をテーマとして、交流セッションや記

念フォーラムや大会式典が行われました。

翌日の9日は、久しぶりに金閣・鹿苑寺に行きましたが、やはり庭園との調和が綺麗でした。浄土宗総本山知恩院にも行きましたが、本堂は残念ながら、改修工事中でした。拝観料は無料で、三門や境内に続く階段は迫力があり立派なものでした。今回の全国大会参加は、以前から交流のある西条支部と合流して、賑やかで楽しい思い出になりました。次年度の全国大会は埼玉県ですが、新居浜支部からもできるだけ多くの会員に参加して頂きたいと思っています。



第60回建築士会全国大会 (京都大会) 各支部報告

西条支部 副委員長 野口 雄司



今年の建築士会全国大会は、京都にて開催です。

12月7日～12月9日の3日間、研修旅行を兼ねて、大会には、西条支部11名、新居浜支部6名、合計17名により参加しました。

西条市、新居浜市を經由して、一路京都へ向けてバスにより出発、バスの中での会話もはずみ、京都へ到着。

月の蔵人にて昼食、むかしながらの建物をリメイクした建物。食事後、寺田屋の見学(寺田屋騒動の舞台舟宿)建物の柱には、龍馬の刀傷もありリアル感がありました。龍馬が歴史上の人物でなければただの舟宿のままなのだろうなと感じました。

月桂冠大倉記念館の見学、昔ながらのお酒ビン等々の展示(新酒と歴代の試飲もしました)

又、伏見稲荷大社の参拝(パワー全快)あまりにおおくの鳥居がありビックリです。頂上までは行けず残念でした。頂上参拝は、次回にとっておこう。

ホテルへ到着、京都の風情を感じるフロントのホテルです。大通りに面した外観は、近代的であり、裏通りに面した外観は、奥ゆかしいたたずまいの外観です。大会前の、懇親会を兼ねた夜食は、少しお洒落な感じ?の居酒屋です。ビールにより乾杯、話がもりあがり2杯目からのビールは何と×2、やかんがでてきて、その中にビールでした。一同ビックリです。(笑)

支部を超えての色々な話も聞け、充実した懇親会となりました。楽しいひと時でした。明日は、全国大会本番。

全国大会前に、建築の見学、京都府立陶板名画の庭(安藤忠雄作)、京都文化博物館(旧)日本銀行(辰野金吾作)近代的な建物、古い建物、設計者により又、時代・時代によりさまざまな思考が生まれるのだなと感じました。

さて、いよいよ全国大会(京都市観業館みやこめッセ)にて行われました。

全国より約3,500名ほどの建築士が参加されました。オープニングは、古来由緒の儀式です。

各大会によって全然違うなと感じました。そして感じた事は、やはり全国大会は、ブロック別にての着席が良いなーと感じました。今回は自由席の為、大会のもりあがりに少し、寂しい感じを受けたので残念に思います。また、京都大会は、いつもと違い12月に行われ寒くなるのではと心配しましたが、期間中は良い天気にも恵まれて良かったです。京都地方も、大会1週間後に雪が降りました。このような全国規模にて行われる大会は、10月におこなわれているので、10月におこなうのがよいのではと感じた次第です。

大会も無事終了、大会後の懇親会は、お洒落な焼肉屋さんにて、こちらでも有意義な時間となりました。楽しいひと時でした。

さて、最終日は、京都市内の建物の見学です。(金閣寺・南禅寺・知恩院等神社仏閣)やはり京都ならではの建物ばかり、国宝の神社は、本堂が平成の大改修を行なっておりましたが、本堂全体を鉄骨にておい改修中でした。やはり国宝級は違うなーと感じました。

昼食は、中華料理です。こちら西条ではあまりないような感じのお店です。料理もおいしく頂きました。

全国大会も、研修旅行も終わり、西条へ帰路となりました。予定のルートは、事故の為、ルート変更となり、明石大橋を久々に通りましたが、風が強くバスが揺れておりました。今回の京都大会及び研修旅行も楽しく充実したひと時でした。

大会に参加して下さった西条支部、新居浜支部の皆様お疲れ様でした、お世話になりました。

第60回建築士会全国大会 (京都大会) 各支部報告

今治支部 石丸 真智子

今治支部は自由参加で4名が参加しました。私と近藤さんの女子(?)二人は6日早朝に出発して、初冬の京都旅行(建築見学)を楽しんだ後、大会に出席しました。

では、見学旅行から報告させていただきます。

旅は「サントリー山崎蒸溜所」の工場見学から始まりました。普段、ウイスキーは水割りかハイボールしか飲まない私ですが、見学ツワールのテイastingで「山崎」はストレートが一番おいしいことを知りました。

ほろ酔い気分で県境を越え、すぐ近くの「聴竹居」(1928年)へ。光と風を生かした「環境共生住宅の原点」と言われる藤井厚二の自邸です。和洋折衷の美しく細やかなデザインに住宅としての機能性や先進性も兼ね備えた、素敵な住宅でした。藤井氏の奥様の実家は出雲大社とのことですが、この住宅の神棚はとてもコンパクトでした。長年の念願がかなった見学でした。



(聴竹居の神棚：襖で隠れる
下はマッキントッシュ風の時計)

更に近所の「大山崎山荘美術館」(チューダー・ゴシック様式+安藤忠雄のコンクリート建築)も見学しました。夜は東寺の夜間拝観で最後の紅葉を楽しみました。

二日目は伏見稻荷～東福寺を修学旅行生に交じって見学。道中「民泊反対!」の張り紙をいくつか発見しました。インバウンド客に沸く京都の裏側ですね。

午後は「同志社大学構内」、「京都御所」を見て歩き、予約しておいた「京都迎賓館」へ。(ちなみにこの日の歩行数は3万4千歩。) 京都迎賓館ではTVで何度も紹介された截金、漆、綴れ織り等々の伝統的技能と現代和風デザインを楽しむことができました。



(京都迎賓館庭園：池の鯉も気品がありました)

大会では「女性委員会+福祉・防災まちづくり部会合同セッション」に参加しました。セッションでは

1. それぞれの部会の目的、行動計画
 2. 福祉避難所の必要性
 3. 復興住宅の実例紹介
- などが発表されました。

式典、懇親会(テーブル同席の青年委員さん達は芸子さんに大喜び)とも京都らしさにあふれていてよい大会だったと思います。



翌日も私は一人で「角屋」などを見学。京都を満喫し、大満足の大会参加でした。近藤さん、来年も一緒に参加しようね!

第60回建築士会全国大会 (京都大会) 各支部報告

松山支部 支部長 赤根 良忠

建築士会第60回全国大会京都大会に12月7日から2泊3日の行程にて松山支部総勢25名で参加しました。京都市「みやこめッセ」にて開催された大会には今年も支部ごとの参加となり、松山支部では6月頃から計画を立て参加者を募り、初日松山市駅を早朝に出発一路京都へ淡路島を縦断京都市内へ入りまず、京都でも観光の名所渡月橋近くの天龍寺を見学。この寺は御醍醐天皇の菩提を弔うために1339年に創建された寺で度重なる火災に見舞われながら復興と再建を繰り返し現在の寺院となっていました。京都市内に戻り「京都の歴史と文化の紹介」を目的に創立された京都文化博物館の本館では「京の至宝と文化・歴史・まつり」など京都ゆかりの文化財を数多くみることが出来ました、別館は辰野金吾と弟子たちに依り設計された辰野様式で旧日銀京都支店として建築され国の重要文化財に指定されている建物でした。2日目の京都大会は各セッション、展示ブースが一つの建物内で開催され、各自が目的のセッションなりフォーラムに参加しました。大会式典の後、大交流会では本県から参加の他支部の方や全国から参加の皆さんと交流を深め有意義な一日を過ごすことができました。3日目は真言宗総本山東寺に、国内最大の五重塔で運

く御開帳の日で塔初層内部の心柱を大日如来に見立て周囲を四体の如来と菩薩の安置を見ることが出来ました、醍醐寺の見学では京都最古の五重塔や上醍醐・下醍醐と三法院と広い境内と数多くの国宝・重要文化財を見るには少し時間が足りなかった感があります。再度訪れじっくりと見学したいものです。帰りは事故渋滞に巻き込まれるなど多々ハプニングもありましたが無事京都大会への参加行事を終えることが出来ました。来年は埼玉県での開催となります大勢にて参加で出来ればと思います。



「京都大会会場みやこめッセ」にて

大洲支部 支部長 神田 孝一

平成29年度建築士会全国大会京都大会は12月8日京都「みやこめッセ」にて開催されました。参加者8名の予定でしたが大洲市の検査と重なり1名減の7名となってしまいました。その上悪いことに私が風邪を引き、前日より38度の高熱を発生し当日朝も熱は下がりません。インフルエンザで無ければ追いかける事とし、大洲を出発する時点で24名乗りのバスは6名乗車となりました。午後1時頃、平成26年に修復工事が完了し新しくなった宇治平等院へ到着。拝観後、全国大会会場へ。高熱を発生した私は病院が開くと同時に受診。インフルエンザで無いことが解りましたので熱を何とか下

げて欲しいとお願いし、JR特急で追いかけて京都大会会場に午後4時前に入場しました。大会式典も進み、次回開催地は埼玉県大宮市とのことと思いは埼玉に飛んで行きます。京都の夕食は川床の有る料亭です。料理は上品でおいしくいただきました。京都は日本酒が美味しいと期待していましたが種類が少なく残念でした。コンパニオンも今一つで、最初の計画の通り舞妓さんをお願いしたほうが良かったかと反省です。以前から京都の人は気位が高い印象を持っていましたが亭主の態度から再認識してしまいました。

翌日9日は京都観光です。時間が有りませんので京都御所、清水寺と祇園界隈の散策です。御所の見学は学生時代より久々です。清水寺は修復中で今年は紅葉も終わっており少し残念な観光となりました。

バスでの片道6時間は少々疲れますが無事帰りました。来年度は東京から近く、バスでの移動も少なく観光地もいろいろ有りますのでより多くの会員の参加を期待いたします。

先日、埼玉県へ行くことが有りましたので会場の下見をしました。JR大宮駅の目の前でホテルが併設されています。当日はエグザイルのライブが有ったようで内部は見学できませんでした。



第60回建築士会全国大会 (京都大会) 各支部報告

西予支部 支部長 亀岡 俊治

平成28年12月8日 京都に行ってまいりました
今回、真っ先に思ったことは「え!師走に京都・・・」
でした(笑)

公私ともに忙しい時期 はたして行けるのだろうか。
8割がた行けないだろうと思っていたのですが 別府大会
の会場を見た京都大会のPRに来ておられた和服姿のお
姉さまがたの姿が忘れられず 京都にいけばあのお姉さま
方がうじゃうじゃいるんだ!との安易な思いから 大会日
の前後2週間もの間 身を粉にして段取りをつけました。
まあ 場所が前回の隣の県と違って遠いこともあり 参加
者は予定から2人減り3人とこじんまりとまとまって
しまいました。(笑)

朝6時前に出発し、数回のジャンクション経由で7時
間後の13:00に到着・・・

疲れ果てた体を出迎えてくれたのは 会場に隣接する〇〇
神宮!名前は思い出せませんw
式典までに時間があつたのでさっそくお参りに!

そのスケールの壮大さに圧倒されました。この大木はど
うやって運んで立てたのだろう?足場はどんなふうだっ
たのだろう?と自分が現場監督のような気分で見て廻
りました。

今はマウスひとつで3次元の世界が見れますが、いやあ
~昔の人はすごい!と改めて感心させられました。

さて、会場の中はというと 展示ブースがズラリ!こっちの
ブースで話を聞き、あっちのブースで手に触れと興味津々
のものがたくさんありました。どれもこれも現場で使って
みたい、我が家につけてみたいと思うものばかりw
そうこうしてるうちに 式典のはじまりです。

いかんせん 椅子に腰かけて先生方のお話を聞いてるうち
に であろうことかマイカーで7時間の疲れがどっと出て
きて夢うつつw

後のことはあまり記憶にないのが実際のところでした。

翌日には7時間かけて 帰らねばなりません。

いろんな話を聞き自分の血とし肉とし愛媛に持ち帰った

かったのですが願いはかなわず、宿泊先のホテルにすら
持ち帰りませんでした(笑)

若いころなら さあ!これからが本番!!というところでしょう
が いかんせん私のご老体の上参加者が3人というこ
ともあって反省会は近くの居酒屋で徹かに執り行いまし
た。

翌日は7時半起床8時過ぎにホテルを後にし 帰路につ
くことに。

せっかくここまで来て慌ただしく帰るのももったいない
という多数の意見でw 宿から一番近いと思われる清水寺
に寄ってみることにになりました。

参門までの上り坂参道では少し古都の風情を感じるこ
とができましたが 運悪く清水寺は大修繕中で外観を眺める
ことは出来ませんでした。そのかわりに今ではあまり
見ることのない丸太で足場が組んであり貴重なものを見
ることができました。これも世界遺産ならではの改修方
法なのでしょう。

ということで ほんの少しだけ古都の風情を持ち帰れたよ
うな気がしました。

近代的な建築物と風情あふれる街並みが混在し神々がや
どる素敵な場所でした。



第60回建築士会全国大会 (京都大会) 各支部報告

宇和島支部 森川 晴喜

今年の全国大会はいつもと違い肌寒い師走の喧噪の中12月に開催されました。

7日の朝、出発予定時刻に遅れる人がいて一時はどうかなることかと騒然となりましたが(私です、皆さんご迷惑かけました)。宇和島から貸切バスにて出発し、現地集合の人を含めると総勢23名の参加となりました。道中では宇和島支部恒例の懇親会モードで楽しく和気藹々と京都に向かい、途中淡路島SAにて昼食、午後遅くには京都に入りました。

最初の見学地は左京区市原にある川島織物の工場です。有名な鞍馬、貴船の手前にある閑静な場所に工場がありゆっくりと見学をさせて頂きました。

その後は、宿に直行です。滋賀県大津の温泉宿に宿泊し、食事と温泉、懇親会と大津の夜を楽しみました。

翌8日は、宇治川のほとり平等院鳳凰堂に向かい荘厳な阿字池の前で集合写真をパシャリ。次に向かったのは伏見の月桂冠大倉記念館です。酒造りの歴史仕組みなど見学をするも、やっぱり楽しみなのは試飲コーナーです。大吟醸酒の味を堪能し、お土産が増えた方も大勢いらっしやいました。

その後北上し伏見稲荷大社へ。だんだん交通渋滞がひどくなり時間も押し気味に。バスを降り昼食を済ませ、いざ参拝。外国人旅行者の訪れたい観光地ナンバー1である伏見稲荷は、やはり海外の人も含め観光客がいっぱいです。JR口からやっとの事で拝殿までたどり着き参拝。結構へとへとです。そこからどこまで鳥居を見に行けるかをチャレンジしたかったのですが、時間と体力の都合上千本鳥居迄でダウン。地元宇和島の方が寄進した鳥居を見つけて少し楽しかったです。参道の店の方に鳥居を寄進する方法などを聞いたりして、やはりあれだけの鳥居を構える文化はただすごいなあと感じました。私が、25年前に訪れた伏見稲荷は、閑散として少し気味の悪いくらいの霊気あふれるパワースポットだったのですが、今は熱気あふれる別の意味のパワースポットに

変わっていました(笑)

さて、やっと本大会会場に到着です。なんとか開始時間に滑り込み、最初に催された棟梁たちの祝いの歌を聴くことが出来ました。一度、関わった上棟式で聞かせていただいた祝の言葉を聞くことが出来て感動しました。

本大会会場を出て宿泊地の新大阪へ、この日も懇親会を堪能し、皆さんそれぞれ大阪の夜を楽しみました。

最終9日はあべのハルカスで大阪の眺望を楽しみ、クリナップショールームを見学させて頂きました。

毎年のことですが、全国大会で支部の絆が強まり、また各地の仲間とまた会えることは、とても有意義なことだと感じています。皆様ほんとうにお疲れ様でした。



松山支部地区対抗ボウリング大会・懇親会

松山支部 道後地区 相原 昌彦

開催日 11月25日(土) 18:30～
場 所 ボウリング:ファーストボウル 懇親会:なが坂
参加人数 ボウリング30名 懇親会33名

食欲の秋、読書の秋…。ボウリングの秋?今年も恒例の松山支部地区対抗ボウリング大会・懇親会を道後地区の担当で開催しました。嬉し恥ずかし初参加の方、前回の雪辱を期する方、はたまた因縁の対決に燃える方も、一投ごとに玉に魂を入れるかのごとく入念に磨いたり、何度も手をよく乾かしたりと、思い思いのルーティーンをやってからレーンに臨んでいました。

「ストライク・ダブル・ターキーと高得点増産中。」

「スペアの後のガーターだ～～～！」

「もう少し左っと!身体をよじってみたり。」

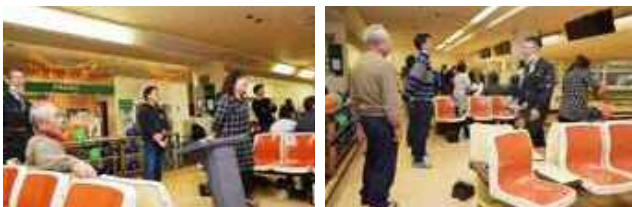
「スプリットなのにど真ん中、投玉完了。」

「もしやこのペースで行けば1位かも…。」

90分二本勝負の熱い戦いが繰り広げられました。



序盤はまずまず?



1ゲーム終了!さてスコアは?



「めざせストライク!!」どうだ、このスコア!



兵どもの夢のあと



団体優勝 西地区、個人優勝 小泉さん おめでとう!

団体の結果

1位 西地区 Ave:141 2位 南地区 Ave:130
3位 道後地区 Ave:130 4位 中央地区 Ave:128
5位 北地区 Ave:122 6位 東地区 Ave:105

個人の結果(敬称略)※女性はハンディーあり

1位 道後地区 小泉 貴央 Ave:163 Tot:327
2位 道後地区 西岡こずえ Ave:136 Tot:332
3位 西地区 坂上 一也 Ave:160 Tot:321
4位 西地区 井上 竜治 5位 南地区 近藤 岳志

団体優勝 西地区 安藤雅人さんから

西地区は団体戦では優勝の常連になっています。今年は、4名で参加。序盤は多分3回優勝している坂上一也プロの調子が上がらずに心配されましたが、調子が良かった新星の井上竜治選手がカバーしました。優勝経験者の玉乃井名人はマイペースで、私は1ゲーム目大失敗で2ゲーム目はそれなりにまとめました。

嬉しいことに、今年もまた団体戦では優勝しました。本当に皆さんのお蔭です。これで来年の幹事も免れることができました。強気の要望ですが「来年から団体優勝の賞品をもっとグレードアップして欲しいです。」

個人優勝 道後地区 小泉貴央さんから

建築士会のイベントとしては、福島での全国大会以来2度目の参加になりましたが、皆さんのお心遣いもあり楽しく参加させていただきました。私自身「まぐれにも程がある。」としか言いようがない結果で個人優勝してしまい大変恐縮です。

団体最下位 東地区 渡邊道彦さんから

一昨年に引き続き最下位の成績で終えてしまい「支部のお荷物?」になりつつある現状に頭を抱えるばかりですが、我々、東地区は成績なんかよりもチーム一丸となって競技を楽しむ姿勢の大切さを理解しております。(先日のバレーボール大会での宇和島チームから学びました)来年度の幹事を仰せつかることになりましたが、この汚名を返上すべく地の利を生かした大胆な会場設定を実施し、こそくな手段だと罵られても「幹事がルールです!!」各地区の皆さんご覚悟ください!

最後になりましたが連絡・取りまとめをして下さった各地区の代表者様、参加しハッスル!して盛り上げてくれた地区の皆様へ心からお礼申し上げます。

7 支部報告

松山支部主催勉強会報告

7 支部報告

開催日 12月2日(土) 16:00～18:00
 テーマ 「住宅基礎を学ぼう!」
 講師 愛媛基礎工事業協同組合 代表理事 田中清久 様
 場所 プロGRESS パーク
 参加者数 38名(懇親会 26名)

去る12月2日(土)、H29年最後の松山支部主催の勉強会を開催致しました。今回は残念ながらいつもの林業会館大ホールが空いておらず、初会場となる松山市駅前の「プロGRESS パーク」にて開催致しました。

さて今回の勉強会は、愛媛基礎工事業協同組合の田中講師をお招きし「住宅基礎を学ぼう!」と題し、今更聞けない基礎工事についてご説明をいただきました。

テーマは、2009年の日本建築学会・「建築工事標準仕様書 JASS5 鉄筋コンクリート工事」の大幅な改訂から8年が経ち、住宅基礎の正しい施工方法や技術にまだ品質水準のばらつきがある業界の問題点にメスを入れた内容です。JASS5 鉄筋コンクリート工事仕様書を技術的な観点からおさらいをし、地業から土工事、鉄筋工事やコンクリート打設までの工程・手順に沿ってそれぞれの工事内容の重要なポイントや、教科書には載っていない裏話なども併せてお話いただきました。

当日参加いただきました方からは、

「日々実務に携わる立場でありながら、パターン化した内容で判断をしてしまっている部分もあった。この機会に再度勉強し認識を改めたい」

「土質に応じた地業工事の説明が非常にわかりやすかった。建築工事はすべてオリジナルのものづくりなので状況に応じた工法を選択する必要がある。幅広い知識が必要だと感じた」

などなど、非常に関心の高いご意見をいただきました。それを裏付けるように、勉強会后、多数の方から当日使用した資料の請求がありました。(田中講師よりデータでいただいておりますのでぜひご連絡ください!)

今回のテーマは、士会会員様として目からウロコの勉強会になったのだと感じました。12月のバタバタした時期の勉強会であるにもかかわらず、36名の方々がご参加いただきました。誠にありがとうございました。2018年の今年も皆様の本業にご活用いただけるよう積極的に勉強会を開催してまいります。また、講師をいただきました田中様、お忙しいところ資料の作成などお手数をおかけし誠に申し訳ありません。今後も何卒よろしくお願ひ申し上げます。ありがとうございました。

松山支部 青年女性委員会 副委員長 大内 雄志

【田中講師からのコメント】

初めての試みということもあり、時間配分を含め準備不足で聞き苦しかったと思います。それでも「昔習ったのを思い出した」とか「もっと〇〇について詳しく聞きたい」など多くのご意見を頂戴し大変ありがたく、そして建築士会の皆様の向学心にひたすら感心させられました。今度は工種ごとに掘り下げた内容で開催することが出来ればと思っています。有難うございました。



勉強会の様子



忘年会の様子・田中講師の乾杯



忘年会の様子・長岡委員長の挨拶

とびだせ建築士 「持田幼稚園見学会」報告

青年委員会委員長 松平 定真

愛媛建築士会松山支部青年女性委員会 河窪 茂樹

開催日 平成29年11月24日(金) 16:00~17:30
 場所 学校法人豊島学園 持田幼稚園
 参加者 松山聖陵高校 教師3名、生徒16名
 松山工業高校 教師2名、生徒20名
 建築士会メンバー14名

今年度も例年とおり、とびだせ建築士を開催しました。松山工業高校より20人、聖陵高校より16人の生徒が参加し、松山市内の持田幼稚園で見学会を行いました。

持田幼稚園は松村正恒氏の設計により、1967年に建築されました。何度か改修工事はしていますが、当時のオリジナルな部分も残されており、日本を代表する木造モダニズム建築といわれる作品です。

園内では2班に分かれて見学を進めました。説明の担当は、辻川晃太郎さん、仙波完太さんでした。事前に勉強会を開催していただいたおかげで、スムーズに進めることができましたと思います。

また、当日は豊島園長先生にも同行してもらい、詳細な説明をして頂きました。ヘリテージマネージャーの講師である花岡直樹先生、当時、持田幼稚園の設計に係わった二宮初子先生にもお越し頂き、当時の事や建築士としての様々な知識を聞くことが出来ました。お忙しい中、お付き合い頂きありがとうございました。

ご協力して下さった豊島園長先生、花岡先生、二宮先生、青年委員のみなさんありがとうございます。

また、来年の「とびだせ建築士」もご協力宜しくお願い致します。



豊島園長先生

説明担当辻川さん、仙波さん



松山支部青年女性委員会でおこなっている「とびだせ建築士」を平成29年11月24日(金)に学校法人豊島学園 持田幼稚園にて開催しました。松山聖陵高校と松山工業高校の教師、生徒、建築士会メンバー合わせて総勢55名の参加となりました。

持田幼稚園は日本を代表する建築家の松村正恒氏による設計で建てられています。松村氏は持田幼稚園のほか、江戸岡小学校や新谷中学校、日土小学校などを手掛けており日土小学校は重要文化財に指定されています。

まず初めに持田幼稚園の外観の特徴を、平面図を手元に建物の配置や窓の配置を見学しました。配置は建物を斜めに配置することにより光や音に配慮されていました。建物南面の壁のほとんどが窓になっていて多くの光を取り込めるように計画されていました。



建物内の説明

次に建物内部へ場所を移動しホール、教室、トイレを見学しました。廊下の天井高さは低く造られており、ホールや教室は勾配天井にすることで開放的な空間になっている。また南面の高窓によって多くの光がどの部屋でも取れるようになっている。トイレや手洗いは子供の大きさによって変更されており子供が使いやすいように設計されていた。

最後に2階の体育館へ移動し見学しました。体育館からは屋上広場とつながっており屋上で球技をおこなえるようになっていた。また屋上広場には避難用滑り台が設置されていて避難経路にも工夫がされていました。

生徒に説明するために勉強することで私たちも多くのことを学ぶことができる良い事業ですので来年以降もこの事業に参加していきたいと思えます。

暮らし+（プラス）勉強会 カルトナージュ体験講座に参加して

四国中央支部 大西 千里

開催日：平成29年11月5日13:30～15:30
 講師：高橋 多重美氏
 場所：松山市男女共同参画推進センター（コムズ）
 参加者数：12名

第一回暮らし+（プラス）勉強会、カルトナージュ体験講座に参加しました。

暮らし+（プラス）勉強会とは、いつもの暮らしに素敵をプラス。というコンセプトで女性建築士が提案する体験型勉強会です。

今回のテーマ「カルトナージュ」とは、厚紙（カルトン）を組み立てて美しい布や紙を覆って作る厚紙細工。フランスに古くから伝わる伝統的な手工芸で19世紀末頃にヨーロッパの上流社会の貴婦人たちが夢中になっていたそうです。

そのカルトナージュが再び人気になっているそうです。手軽に作れ、生活の中で実際に使えるというのが魅力。まさに「いつもの暮らしに素敵をプラス」です。



【講師の先生の説明】

今回、私はA4サイズのバインダーのカルトナージュに挑戦しました。使う材料は輸入壁紙と厚紙だけです。まずはメインとなるデザイン壁紙を選びます。



【先生が用意してくださったデザイン壁紙】

何種類ものデザインから選びます。女性といえば優柔不断!というイメージですがさすが建築士やコーディネーターの皆様。争うこともなくパツと決まりました。女性特有のおしゃべりもなく皆様潔く決めていきます。私が一番最後まで迷ってしまいました。

デザイナーの皆様。争うこともなくパツと決まりました。女性特有のおしゃべりもなく皆様潔く決めていきます。私が一番最後まで迷ってしまいました。



【先生が手順を丁寧に教えてくれます】

デザインが決まればよいよ作業に取り掛かります。ここでも皆様早い早い。躊躇なく作業を進めていきます。先生が説明して下さっているそばからどんどん作業が進んでいきます。

今回の体験講座で「さすが‘女性’建築士だな」と感じたことがあります。バインダーには表と裏があります。表は紙などをクリップして使用する場合、貼った壁紙のデザインは隠れてしまいます。なので気に入ったデザインの壁紙を表に貼るか、バインダーを使用している際でも見える裏側に貼るかで迷ってしまいました。

私は恥ずかしながら何も考えずにクリップする方にメインの壁紙を貼ろうとしていました。

皆様は普段から物を使う人のこと、使いやすさ、感じ方を考え、素敵な生活、ライフスタイルを提案されているから自然と思いつく事なのだな、と感じました。女性らしい細やかな気遣いです。

「いつもの暮らしに素敵をプラス」。女性ならではの体験講座でした。



【皆さんで集合写真】

女性委員会主催 新年会、見学会の開催報告

松山支部 永井 由起

平成30年1月14日（日）、女性委員会主催の新年会が道後温泉ふなやにて、その後、見学会が道後温泉本館周辺で行われました。

大塚委員長が中四国女性委員会の会議にて見学会のお知らせをしたところ、参加希望者があったということで案内状をお送りしました。新年会と見学会の同日開催ということで、新年会は21名（内、香川より3名）、見学会には士会会員、そのご家族合わせて当初の予想の2倍近い36名（内、香川より6名、高知より6名）のご参加を頂きました。

当日は南予方面の方は積雪があったそうで公共交通を利用された方も数名いらっしゃいましたが、見学会としては天候に恵まれ、比較的暖かい一日でした。

新年会は12時よりの開催となりました。今回はフレンチコースで、美味しくいただきました。なかなかお目にかかれない方も旧交を温め、お酒が出ずとも（個人的に注文するのはOK!）楽しいひとときを過ごしました。香川からご参加の村上良枝様より、今年6月開催の中四国ブロック香川大会のご案内をいただきました。

14時からの見学会は今年の秋以降、道後温泉本館が耐震改修を含めた修復に入るため、今のうちにもう一度見ておこうということで設定した企画でした。松山市のボランティアガイドさんの解説により、道後温泉駅、からくり時計、放生園から商店街を抜け、途中、現在開催中の「道後オンセナート2018」の蜷川実花氏のインスタレーション作品や、三沢厚彦氏のオブジェの紹介がなされました。平成25年の火災で消失し、平成28年に再建された宝蔵寺を回り、八幡造の社殿が国の重要文化財である伊佐爾波神社を巡り、最後に内藤廣氏の基本構想による飛鳥乃湯泉（あすかのゆ）に立ち寄り解散しました。

見学会は例年、気候の良い秋ごろとしていましたが、昨年は国体の開催、それに伴う県内行事のずれ込み、また、全国大会が12月であったこともあり、年明けの新

年会との同日開催となりました。新年会担当の小原さんには、見学会担当側の希望を受け入れていただきましてありがとうございました。おかげさまで新年会、見学会ともにたくさんの方にご参加いただき、改めて道後の魅力を再認識しました。ガイドさんの解説は好評で、ヘリテージマネージャーを現在受講している身としては復習にもなり、大変有意義な見学会になりました。

今後も楽しい新年会、見学会を企画しますので、会員みなさまのご参加をお待ちしています。



香川よりご参加の村上様



飛鳥乃湯泉前にて
ボランティアガイドさん、参加者のみなさんと

第6回瓦の勉強会『瓦の未来創り』に参加して

松山支部 八束 智恵美

1月27日(土) 愛媛県林業会館にて、毎年恒例となった愛媛県瓦工事業組合青年部と青年・女性委員会との共催の第6回瓦の勉強会に参加しました。瓦師 大栄窯業株式会社 道上大輔氏を講師にお迎えし、『瓦の未来創り』～モノづくりから、コトづくりへ～というテーマで、建築士会より16名、瓦工事業組合から4名の合計20名での勉強会となりました。



世界と日本の街並み写真を比較し、世界の街並みの絵になる風景に驚き、日本はなぜそうならないのか。

その土地の土を焼いた瓦がその土地の風景の色を創る。

1枚1枚の瓦からそれらが連なった【風景】を創りたいという、若い瓦師ならではの熱意あふれる講演でした。



◆講演でも紹介された吹屋の街並み

また、日本の建築は神事であるということ象徴づける『火入れ式』や、海外での瓦の施工事例、「monokawara」ブランドでの釉薬をかけたデザイン瓦、スツール、さらにはパターに至る幅広いデザイン商品等々を紹介して頂き、瓦の分野がより魅力的でより身近に感じられました。



◆瓦ヘッドのパター!!

最後に、梅棹忠夫氏の『文化とは学術・芸術・技術・・・この三術』ということばで締めくくられ、あっという間の2時間でした。

建築士会全国大会

西条支部 野口 雄司

平成29年12月7日～平成29年12月9日
建築士会の全国大会の報告とさせていただきます。
近々での個人的な行事はおこなっていないので全国大会での報告とさせていただきます。

大会前に、寺田屋に行きました。

歴史上の人物の人々がいた建物を現代の時代にも見れる事の素晴らしさを感じます。建物は特に目立つような建物でもないですが、歴史に刻むと何気ない建物にも価値がつくものだなと思いました。



外観は特にこだわりもない自然なその時代の建物

伏見稲荷大社は、全国はもとより、外国人も多く来ている有名な大社です。多数の鳥居がありその鳥居は、奉納の為の鳥居であることに奉納された方々の思いが多く、鳥居となったので、何か初めにきっかけがあり、今ではこのような世界でも類をみない大社になったのであろうと思う。何事にも初めの行いにより色々と言物が進んでいくのだなーと感じた大社であります。



鳥居が多く頂上まではいけず（本堂建物）

京都文化博物館は、旧日本銀行の建物であり保存物としてもこれからも残っていく建物であろうと感じる建物で、今の時代にでも斬新とおもえる建物であり現代の建物に影響したであろうと思います。建物の裏には本館が新設されておりますが、旧建物の内部の窓口の造作な

どを伝える人がいるのであろうかとも思いました。

現代の時代は、コンピューター又、AIの発達により増々人の手を借りず作業が出来るようになるであろう時代だからこそ、職人による作業を後世に残していくことを考えなければなあと思った次第です。



重厚なたたずまいの建物

金閣寺は、外壁部分が金色のまぶしき輝きをほこる建物であり建設時よりも金色（金箔？）に使用したのには、何か意図があったのではないかと色々と考えながらみるのも又違った方向で建物を見ることできるのかなと思います。



金色に輝き水面に映り神々しい建物

建築士会の全国大会に行くことにより、各県の重要な建物（施設）を見学することも全国大会に出席する意義があるのではないかと思います。

今回の全国大会京都大会は、中学生の修学旅行以来の京都に出かけたので良い思い出となりました。

四国の又、愛媛県の有名な建物（施設）、重要文化財の建物（施設）をさがし見学をして建物（施設）の成りたちを調べてみようかなと思いました。

全国大会の行事報告となりましたが、京都へ行かれたことがない会員の皆様もおられるのではないかとと思います。是非上記の施設を訪ねて頂ければ幸いです。

以上、行事報告とさせていただきます。

ヘリテージマネージャー養成講座 受講のきっかけ

松山支部 中山 百合子

この度、高須賀範昌さんからバトンを受け取りましたが、私でいいの？という感じです。が、次回のバトンは八幡浜支部の眞田井良子さんにお渡ししますので、今回は中休みというゆるい感じでお読みください。

ただいまヘリテージマネージャー養成講座を受講しています（いしづち3月号発行の際には資格が取得できていることを信じています）。ヘリテージで学ぶことで、今まで漠然と好きだと思っていた古い家々が、さらに面白くなりました。柱や梁の太さや長さ、部屋ごとの格式、欄間の細工、家の歴史、昔の人の洒落や智恵を知ることがあったり、中にはまるで謎解きのようなものがあったりと、興味がつきません。

ただ、ふと、なぜ私がヘリテージを受講することになったのだらうと思えば、建築とは全く違う分野からの興味であったことを思い出しました。たぶん、建築士の多くの方とは違うアプローチであったので、ちょっとそれについて書いてみたいと思います。



それは、縁あってうちに来た長磯（ながいそ）と呼ばれる古いお箏（こと）がはじまりでした。由来はわからないものの、造りを見ると明治が大正時代のものでしょう。最近のものとは違い、鼈甲（べっこう）や象牙といった高価な材料をふんだんに使っており、漆塗りに金蒔絵、象嵌といった技法に彩られています。そして何より素晴らしいのが、寄木細工でした。



写真でご紹介いたしますが、この六角形の鼈甲模様の1つ1つ、VVVと連なる模様の1つ1つが、描いたのではなくて寄木細工なのです（定規のメモリは2ミリ）。昔の職人さんは何と細かい作業をするものだと、すっかり感心しました。ただ、古い楽器のため、よく見ると金蒔絵や象嵌が欠損しているところがありました。寄木細工もところどころ取れたり浮き上がったりしていたので修理に出そうとした

のですが、何と困ったことに、簡単に職人さんが見つからないのです。



インターネットを駆使して漆職人さんを探し出し、現状を見てもらいました。すると、漆の色までを塗る人、

絵を描く人は別であることを知り、さらに寄木や螺鈿の修理は別の人であることを教えてもらい、修理には多くの職人さんが必要であることがわかりました。結局のところ、費用と楽器としての価値を考えて（ヴァイオリンのようなニスを塗る楽器と違い古いお箏は音が悪いのです）漆と蒔絵、象嵌部分の修理にとどめることにしました。



この後、仕事関係のお客様から明治時代の漆器を大量にいただくことになり古い物に対しての興味が大きくなり、ひい

ては古い建物もさらに好きになっていき、ついにはヘリテージマネージャーの募集要項を見てすぐに申し込んでしまったというわけです。

時間をかけて家や物を作ることが許されていた時代、当時の大工さんや職人さんは自分の技を存分に発揮できていたのではないかと思います。

そうして建てられた家を発見し、わくわくし、そしてヘリテージの理念の通り「保全・活用」につなげていけるようになりたいと思っています。



（写真は久万高原町で見つけた古いお家の床の間の天井です。何故このように放射状なのでしょうね。わくわく推理中です。）

平成 30 年度「地域貢献活動基金助成対象事業」の募集について 〔建築士会は、まちづくり活動を支援します。〕

公益社団法人愛媛県建築士会は、会員の皆さんが地域の人々と共に行う社会貢献事業や建築士会の内部組織（研究会等）が実施する地域貢献活動としての事業を応援します。

すでに活動をしている方も、これから何か始めようという方も、一定の条件を満たせば事業に助成金を活用することができます。

1. 助成の対象事業の内容

会員が参画する以下のテーマに沿った営利を目的としない地域貢献活動が対象です。

- | | | |
|----------------|-----------------|----------------------|
| (1) 地域のまちづくり | (2) 景観の保全 | (3) 居住環境の保全・整備 |
| (4) 自然環境の保全・整備 | (5) 福祉環境の整備 | (6) 地域住宅づくり |
| (7) 地域防災づくり | (8) 歴史的遺産の再生と活用 | (9) その他、地域活性化、社会サービス |

2. 助成の対象

- ・建築士会会員が参画する地域貢献活動に対する活動助成
- ・国、地方公共団体から、建築士会に対しての委託事業、人材派遣に関連して進められる地域貢献活動に対する活動助成
- ・地域貢献団体助成事業運営委員会が助成を必要と認めた地域貢献活動に対する活動助成

3. 助成金

- ・1件当たり限度額50万円とし、助成率は事業活動費の3分の2とします。
(継続的事業の場合は3年を限度とします。)

4. 応募手続き

①助成申請者は

- ・申請時に組織内に建築士会会員として継続して在籍が3年以上の者が複数参画している活動団体の代表者
- ・建築士会の内部組織（研究会等）の代表者で上記2の助成事業を行おうとする者。

②助成申請書は規定の申請書により申請してください。(申請書はHPからダウンロードできます。)

<http://www.ehime-shikai.com/other/6734.html>

5. 応募期間

平成30年4月2日～5月31日まで（事前問い合わせは随時受け付けます。）

※応募期間前であっても、仮受付をしますので、お申し出ください。

6. 助成対象事業の決定と助成金交付等について

- ・助成対象事業の趣旨に沿った事業かどうかを基準に「愛媛県建築士会地域貢献団体助成事業運営委員会」が審査します。助成額の決定は、申請書受理後60日以内に書面にて通知します。
- ・事業の実施期間は、助成額決定日から平成31年3月31日の間に実施される活動を基本とします。
- ・助成金は、交付申請者に対して、助成金交付決定通知後の助成金請求に基づき交付します。
- ・交付申請者には、活動の内容・助成金の管理・報告書の提出に責任を持っていただきます。

7. 助成事業一覧について（事例）

年度	事業名		助成額	備考
27年度	八幡浜市	技手木村保一顕彰事業	10万円	継続2年目
	今治市	特定非営利活動法人今治シビックプライドセンター	11万円	単年度
28年度	八幡浜市	技手木村保一懸賞事業	20万円	継続3年目
29年度	松山市	建築士による木造住宅の耐震化を促進する会	10万円	継続1年目



地域づくり人養成講座
(木村保一顕彰会)



デジタル防災無線講習
(まつやま災害救援ボランティアネットワーク)

提出及び問合せ先

公益社団法人愛媛県建築士会

〒790-0002 松山市二番町4丁目1-5

TEL 089-945-6100 FAX 089-948-0061

E-mail lee04603@nifty.ne.jp

あなたの原稿をお待ちしています。

公益社団法人として、広く異業種や全ての皆様から建築士会の枠を超えて原稿を広く募集して広く購買して頂くようにしていきます。是非、寄稿して頂きますようお願い致します。本年度は年6回発行となります。(尚、営業的色彩の濃いものにつきましては、掲載されない場合もありますので、ご了承下さい。)

「いしづち」の本年度の原稿締切日

平成30年 5月号(122号) 平成30年3月22日(休)

※ 校正印刷の関係で締切延長の最終期限は一週間後の木曜日とします。

※ 1ページ写真込みで2150文字(25文字×43行×横2段)のWORD様式を事務局で用意していますのでご活用ください。

写真は1ページ当たり3枚程度まで題名を付けて添付してください。

また宜しければ投稿者の写真(免許写真程度の顔写真)を添付してください。

会員の皆様のご参加をお待ちしております。また記事等についてのご意見・ご感想もお寄せください。

(尚、投稿された原稿につきましては、要旨を変えない程度の若干の訂正等を加えることがあるかも知れませんので、予めご了承下さい。)

この誌面を通じて、会員の方々、そして一般の方々にも、建築についての対話等の輪が広がれば、と願っています。

情報・広報委員会

読者の声欄

「いしづち」に関するご意見・ご提案などをお寄せ下さい。お待ちしております。

「いしづち」編集委員会(土会事務局内)宛

—FAX 948-0061—


編集後記

吉野山 こそえの花を 見し日より 心は身にも そはずなりにき (西行)

世の中に たへて桜の なかりせば 春の心は のどけからまし (在原業平)

なんと昔の人々は、花好きだったことでしょうか。この時代に詠まれている桜は、山桜だったのかどうか、ともかくもまだソメイヨシノはなかった時代です。

昔も今も、花を愛でる人の気持ちは変わらないのかも知れませんが、昔の人々の自然とのかかわりは、空間的にも時間的にもまさに“原寸のスケール”での触れ合いだったのだらうと思います。それゆえ、そこに込められたピュアな心の喜びが、いくら時を経ようとも歌を詠むたびによみがえってくるのではないかと素人考えながら思ったりします。建築もまた同じように、人の心に喜びをもたらす空間が、そこに設えられているかどうか。因みに、

花札でも三月は桜です。  (関係ナイ!)

(玉乃井 公和)

〈いしづち〉2018/3

平成30年3月発行

発行人 **会長 寺尾 保仁**

発行所 **公益社団法人 愛媛県建築士会**

〒790-0002 松山市二番町四丁目1-5

TEL (089)945-6100 FAX (089)948-0061

<http://www.ehime-shikai.com> E-mail: info@ehime-shikai.com

印刷所 明星印刷工業株式会社

情報・広報委員会・広報委員

委員長 玉乃井公和 副委員長 大上 恵子

編集委員 渡邊 道彦 山本 晶子 大平 将司